

# 営農技術情報

—畑作(秋まき小麦⑦)—

令和元年 7月 8日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～成熟が早まっていますので、早めの収穫準備をお願いします～

## (1)生育経過について

本年は、出穂後も気温が高く推移しているため、平年に比べて成熟が1週間程度進んでいる状況です。今後1ヶ月間は、平年から低めの気温が予想されていますが、収穫開始は、平年より早まることが見込まれます。

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂期	乳熟期	成熟期	収穫始
<b>本年</b>	<b>4/17</b>	<b>5/12</b>	<b>5/29</b>	<b>6/4</b>	<b>6/25</b>	<b>(7/13)</b>	
平年	4/20	5/13	6/3	6/11	7/2	7/20	7/24
遅速	早3日	早1日	早5日	早7日	早7日	(早7日)	

## (2)汚粒の防止

雑草が多いほ場では、収穫時の雑草種子や茎葉の混入により、小麦の子実が汚粒となるおそれがあります。また、後作での雑草も多くなりますので、収穫前までに抜き取りを行うようにしましょう。

## (3)穂および茎葉の汚れが気になる場合

本年は、赤さび病の発生が多い状況です。また、登熟が進むにつれ、穂や茎葉に雑菌(黒カビ)が付着しやすくなります。小麦を収穫まで健全に保つため、「チルト乳剤25」(収穫3日前まで)の散布が有効です。

なお、赤かび病については防除適期を過ぎているため、効果は期待できません。

## (4)収穫時の留意点

- 登熟が不揃いの場合は、登熟の進んだ部分から収穫するようにしましょう。
- コンバインでの**収穫は子実水分30%未満を目安に開始**して下さい。
- 倒伏している場合や、穂発芽・赤かび病などの異常麦は別刈りとし、正常な小麦に混入しないようにしましょう。
- 高水分で収穫した小麦は、異臭麦発生の原因となるので3時間以上放置(長期堆積)しないようにしましょう。
- ほ場内にレキや防除目安のポールなど収穫作業に障害となるものがないか、収穫前に予め確認しましょう。
- **万が一、「なまぐさ黒穂病」が疑われる症状が見られた場合は、収穫作業を中止し、JAもしくは普及センターまでご連絡下さい。**

コンバイン作業時には、周囲の安全を確認するとともに、点検・清掃時は必ず、エンジンを切ってから作業を行いましょう。